

悔しさを胸に準優勝の表彰を受ける  
山本主将（中央）らJTの選手



堀田晋一朗



Vリーグが閉幕した。言葉では言い表せないほど悔しいが、準優勝という結果となった。今シーズンはこれまでに経験したことがないような長く、厳しいシーズンであったように思う。

試合数が増え、リーグ期間が長くなった。全体的に対戦相手のレベルも上がり、本当に気の抜けない戦いの連続であった。リーグ序盤は一進一退の展開。12月の全日本選手権を制したことが、上昇へのターニングポイントになった。

故障の回復を図りながら試合に照準を合わせ、チームの主砲として得点を重ねたエドガー選手。劉選手の破壊力の

## 準V 応援に最大限感謝

あるバックアタックや相手のエースを高さでねじ伏せるブロック。大学の先輩と後輩でもある、安永選手と小野寺選手の決定率の高い速攻や要所でのブロックポイント。井上航選手の堅実なサーブレシーブや素早い反応のディフェンス。司令塔として頭脳的に相手のブロックシステムをかくぐる深津選手のトスアップ。主将として選手をまとめ上げた攻守の要でもある山本選手。コートに立つ一人一人が役割をしっかりと理解し、実践した。

スタメン以外のメンバーもチームが劣勢や厳しい場面で期待通りの活躍を見せ、最大限のサポートを行った。プロコピッチ監督以下、スタッフも毎日時間をかけ、試合の振り返りや次の対戦相手への研究を重ねた。本当に全てのメンバーが持てる力を振り絞ったことは間違いない。

チームの順位は準優勝であるが、全国各地や地元ホームゲームでのファンの声援は間違いなく日本一であった。苦しい場面で声援に後押しされ、勝ち切った試合は忘れられない。ファンがチームメンバーのような感覚も味わった。目標にあと一步届かなかったが、心を一つに応援していただいた皆さまへ最大限の感謝を述べたい。「本当にありがとうございました」

（JTマネジャー）